

## (様式2)

|                               |                                                      |               |
|-------------------------------|------------------------------------------------------|---------------|
| 支 部 事 業 報 告 (射水・高岡・氷見1・2支部合同) | 開催日                                                  | 2020年11月7日(土) |
|                               | 時間                                                   | 9:00～11:30    |
|                               | 場 所                                                  | 高岡市ふれあい福祉センター |
| テーマ                           | 射水・高岡・氷見1・2支部合同研修会                                   |               |
| 参加対象者                         | 会員・非会員 その他( )                                        |               |
| 参加人数                          | 会員 ( 67 )名 非会員 ( )名                                  |               |
| 事業目的                          | 1. 看護連盟会員としての自覚を持ち、その役割を知る<br>2. 会員相互の親睦を図り、活動の幅を広げる |               |
| 研修会名                          | 射水、高岡・氷見・1・2支部合同研修会                                  |               |
| 参加者数                          | 会員 ( 67 )名 非会員 ( )名                                  |               |
| 主 催                           | 富山県看護連盟射水、高岡・氷見1・2支部看護連盟会員                           |               |
| 研修方法                          | 講演                                                   |               |

## 【内 容】

講演1. 講師:富山県看護連盟射水支部 林 敦子支部長

看護連盟とは、看護の政策実現のために看護協会会員が看護連盟会員となり政治活動に参画し、よりよい社会づくりに貢献することであると分かりやすく説明された。看護と政治は密接な関係で結び付いている。一生懸命仕事をしていても給料表の改善に繋がらない。また、働きやすい職場づくりを目指したい等の現場の声を組織に届けることにより具体的な政策が作り上げられる。そうすることにより政治の俎上に載せて制度化・法制化される。

倫理綱領に基づいた政治活動・選挙活動に看護職一人ひとりが関心を持ち、制度の変革へ参加する意義が理解された。「政治に無関心であっても無関係ではいられない」の言葉にその通りであると痛感した。法律を変えるには時間がかかる。歴代の看護職議員が尽力を注ぎ成果を出してくれた。私たちの未来のために、自分たちの手で看護連盟を通して看護制度をより良いものにしていくことの必要性を感じさせてくれる講義であった。



講演2 講師:医療法人真生会 真生会富山病院感染管理認定看護師 梅田 加洋子先生

「with コロナと冬の感染症」と題して、代表的な冬の感染症や新型コロナウイルス感染症について、Withコロナを賢く乗り切るための講義をされた。分かっているようで出来ていないことを指摘される内容であった。感染は発病ではない。感染が成立する前に、感染の連鎖にある「感染経路」で断ち切り、他の方の体に入っていないようにすることが感染拡大防止のために重要な対策である。人は伝播する病原体を保有している。いつでも・どこでも・誰にでも標準予防策に加え、感染経路別予防策をする必要がある。冬の代表的な感染症には、インフルエンザとノロウイルスがある。ウイルスは、低温(16℃以下)・低湿度(40%以下)の環境では長く生存できる。外気が乾燥し寒くなると体内水分量が減少し免疫力が低下するため、水分補給が重要となる。一つに罹患したことで体力が落ちた後に別のウイルスが入ってくることは理解できた。



## まとめ:

林敦子支部長は、日本看護連盟の役割と過去から現在までの実績が報告され政治活動の重要性を話された。また、梅田加洋子先生の「withコロナと冬の感染症」では、感染症対策の基本を再学習しコロナの最新情報を知ることができた。参加者からは、「分かりやすくもっと聞きたかった。」との声も聞かれ、大変有意義な研修会でした。

新型コロナウイルス感染拡大を避けるため2度の中止を強いられた研修会であったが、感染対策を十分に実行実施できたことは、コロナ禍での研修会を模索してきた我々にとって、新しい研修の在り方を示すことが出来たと言える。